

目黒巻WSの普及に向けた取り組み



2004年～2009年にかけて様々な組織や集団を対象に、計18回のWSの実践・普及活動を行った

目黒巻WSの実践から得られた課題

- 災害未経験者には災害状況をイメージするための手助けが必要
- 乳幼児施設の防災力向上のためには行政・乳幼児保護者との課題の共有が必要
- 新潟県中越地震の被災経験者(妊産婦・乳幼児保護者)を対象としたアンケート調査から、体験・教訓を収集
- 東京都の「子どもを守る災害対策検討会」に参加し、福祉・防災各分野の専門的知見を収集

過去の災害からの教訓

専門的知見

妊産婦・乳幼児保護者向けのパンフレットを作成



内容

1. イン트로ダクション
2. 事前対策(書き込み式)
3. 参照用災害状況ストーリー
4. 書き込み式ストーリー
5. 被災経験者からのメッセージ
6. 東京都の防災情報先
7. 防災の文献・HP資料

※東京都のHPからダウンロード可能
(地震がくる前に子どものためにできることで検索)

※参照用災害状況ストーリー(参照ストーリー)の一例

東京で地震が起こったら

ケース1: Aさん(妊娠8か月)の場合

17:00 地震発生

震度6強 (発生) 冬の朝に休口 17時

夫:会社員 自宅:賃貸アパート(築10年)3階 地震対策:とくにない

地震発生時の状況

揺れの最中

- ものすごい揺れで動けず、おなかをさぼらさう。
- 冷感車が揺れ、台所に倒れ込まれる。夫に助けを求められる。
- 夫が携帯電話の光で部屋を探らし、様子を確認。
- ガラスや収納物が部屋中に散らばっている。
- 火災を恐れたため、ガスの元栓やブレーカーを止めて避難しよう。

揺れが収まる

- 夫が携帯電話の光で部屋を探らし、様子を確認。
- 冷感車が揺れ、台所に倒れ込まれる。夫に助けを求められる。
- 夫が携帯電話の光で部屋を探らし、様子を確認。
- 冷感車が揺れ、台所に倒れ込まれる。夫に助けを求められる。
- 冷感車が揺れ、台所に倒れ込まれる。夫に助けを求められる。

数分後

- アパートの下に集まっていた近所の人を助けて避難しよう。
- 夫が倒れたまま、おなかをさぼらさう。
- おなかをさぼらさう。
- おなかをさぼらさう。
- おなかをさぼらさう。

数時間後

- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。

数日後

- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。

数か月後

- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。
- 避難所生活がつらく、夫が自宅を片付けてくれたので自宅に戻る。

避難所の様子

避難テントの様子

目黒巻WSの成果～下馬鳩ぼっぼ保育園の場合～

WSの報告書作成

WSに参加できなかった保護者とも情報共有ができた



防災マニュアル作成

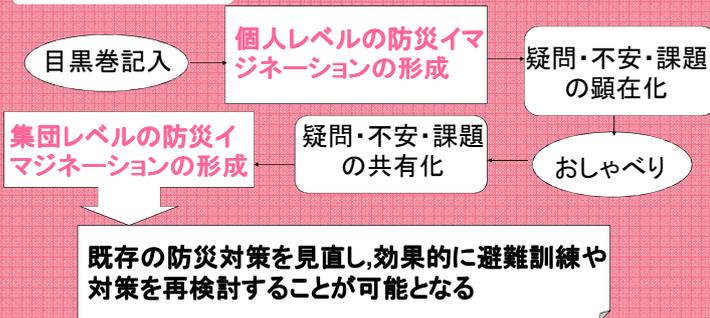
避難訓練マニュアル
避難マニュアル
連絡マニュアル
を作成した

落下防止・飛散防止対策の実施

重い器具の落下防止対策やガラスの飛散防止対策が行われた



目黒巻WSの検証



パンフレットを用いたWS参加者の感想

- 参照ストーリーの内容が詳しく、とても参考になった
- ボランティアの目線からのストーリー等、もっと別の参照ストーリーを追加してほしい
- 被災者からのメッセージがとても参考になった

結論・・・ 目黒巻WSにより災害イメージネーションが形成・共有され、個人から集団までの防災イメージネーションが向上することが確認できた。またモデル園でのWS後の調査を通じて、ソフト・ハード両面での防災対策が具体的に進展したことも確認された。